

(別紙様式)

金沢市立明成小学校

【はじめに】

本校は、金沢駅近くに位置し、平成7年4月に旧瓢箪町小学校と旧此花町小学校が統合して開校した。全校児童は252名、教職員は23名である。

学校の北側には浅野川が流れ、南側には安江八幡宮や東別院など由緒ある大きな境内をもつ寺社も数多く見られる。そのため、四季を通じて子ども達が自然を目にする事が出来る。また、西側にはふらっと通りや安江町商店街など歴史と伝統を重んじながらも新しい感覚を取り入れた店舗が軒を連ね、地域の方々には郷土愛に満ちている。

一昨年度、ユネスコスクールの認定を受け、環境や文化、国際理解を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

たくさんの絆をつなごう！

1 ユネスコスクールとしての取組

・1年生「きせつとなかよし」

校庭や校区の公園へ出かけて、その季節の変化を見つけたり、見つけたもので遊びを考えたりした。

春には校庭で、桜の花の様子を観察し、花が散った後には葉っぱが茂ってくることに気付いた。夏には、夏の遊びを考える学習に取り組み、自分たちで遊びを相談し、色水遊び・水の的あてゲーム・シャボン玉・魚釣りのコーナーを準備し、2年生を招待して楽しく遊ぶことができた。秋には校区の公園へ出かけ、きれいな葉っぱを集めたり、木の実を見つけたりしてきた。集めた木の葉で遊ぶ活動を行い、葉っぱのシャワーやお風呂を作り体全体で秋を感じていた。また、家からどんぐりやまつぼっくりを持って来て、おみくじやマラカス、ボーリング遊びなどで楽しく遊ぶこともできた。冬には校庭で雪遊びを行ったり、氷やツララを集めたりして冬を楽しんでいた。一人一鉢では、アサガオやチューリップを育て、畑ではサツマイモ、菜の花などの季節に合った花を育てることで、季節による違いに目を向けることができた。

・2年生「地域の方との交流」

此花公民館で、地域の方々が集まるサロンがあり、毎年2年生との交流を続けている。本年度は始めに、公民館からのご招待を受け「ひやくまんさんにチャレンジ」と名を打ち、一緒に起き上がりこぼしの絵付けを行った。子どもたちは同じ机に座った地域の方からのアドバイスをもとに、体の模様や顔の表情をどんな風にするかを話したり、できあがったものを褒めていただいたりしながら、楽しく絵付けをしていた。できあがったものは、サロンにも飾って見ていただいた。

次は、地域の方々を学校に招待し、生活科の学習を生かして作った「おもちゃランド」で楽しくすごしてもらった。子どもたちが企画運営し、司会進行も子どもたちが行った。子どもたちは自分たちの考えたお店を地域の方に楽しんでもらうにはどうすればいいか考え、自分たちで地域の方の役をして相手の身になって考えながら準備することができた。その中で自分たちが楽しく感じることで地域の方が楽しいと感じることの違いにも気づき、人を喜ばせる難しさや、人を気遣うことの大切さに気づくことができた。

・3年生「食べ物探検隊！」

金沢学びタイムで、金沢は茶道が盛んであり、和菓子が有名なことを学んだ。氷室まんじゅうの由来をはじめとする伝統行事にも触れ、金沢らしい食文化について調べたことを壁新聞にまとめて全校に発信することができた。

社会科の「工場の仕事」の学習では、校区の和菓子屋さんを訪れ、和菓子を通して季節を表現する和菓子職人さんの工夫や技術を肌で感じる事ができた。そのあと全員がおまんじゅう作りを体験した。金沢駅が近い校区の特色を生かして、もうすぐ開通する北陸新幹線をかたどったおまんじゅうを作った子どももいて、伝統と



未来をつなぐ一端を担うことができた。

これらの活動から、子どもたちは和菓子をより身近な物としてとらえ、金沢に息づく伝統文化の良さにも気づいた。

・4年生「ネイチャー エコクラフ」

今年度も、グリーンカーテンとして、アサガオとヒョウタンを栽培した。4月下旬、校舎横のプランターの土を耕し施肥を行い、5月上旬に苗を植え、当番を決め、水やりや草抜きを毎日続け世話をした。

夏休み中も当番を組み、朝・夕の1日2回、水やりや草抜きを続けた。土曜日と日曜日には、地域のボランティア（グリーンボランティア）の方と一緒に、栽培を続けた。暑い夏であったが、アサガオとヒョウタンの葉が茂り、グリーンカーテンとなり、1階理科室横と玄関には影ができ、効果が見られた。夏休み明けには、グリーンボランティアの方にお礼をし、ヒョウタンの生長を喜び合った。

秋には、ヒョウタンは大小様々な実をつけた。また、理科の学習と関連させて、ヒョウタンの様子を観察した。一人一人がその生長の様子を見守ることができ、7メートルまで伸びた草丈に感動する姿も見られた。



・5年生「知ってるけ？加賀野菜 使ってみまっし！加賀野菜」

社会科「日本の農業生産」で、近くのスーパーマーケットなどで販売されている農産物の産地を調べる中で、身近な食材は日本全国から集められていることを知った。同時に、地元の農産物が全国に送られていることを学習した。そこで、地元の農産物の中でも「加賀野菜」ブランドとして生産されている野菜について、その栽培の仕方と食材としての利用法を調べ、実際に行うこととした。

栽培の仕方についてはインターネットなどの資料を参考にし、理科「植物の発芽と成長」の学習とリンクさせて取り組んだ。栽培方法の難しさや夏休みを挟んだことにより思い通りの収穫はできなかったが、農業従事者の生産の苦勞にもふれることができた。総合学習「加賀野菜を取り入れた給食メニューを考えよう」では、加賀野菜の調理の仕方を家の方から聞き取ったり資料等を調べたりして、メニューを考えた。栄養バランスや彩りにも工夫した献立を考え、レシピを作成することができた。

このように、教科をまたがった学習や「地産地消」の観点からも、子どもたちは「加賀野菜」を金沢の産業や文化としての身近なものにとらえることができた。

・6年生「自分さがし」

金沢大学医薬保健研究域小児科准教授 太田邦雄先生に来校を頂きお話を伺った。太田先生の考え方を聞き、医師と言う職業の一部ではあるが知ることができた。

もし自分の大切な人が目の前で倒れたらどうするかという問いかけに対し、子どもたちは命を救いたいと答えた。命を救うためには、その場での心肺蘇生が大切であることを知り、実際に人形を使って心配蘇生法を体験した。結構強い力とスタミナが必要であることを実感することができた。さらに、AEDの使い方についても教わり、これも簡易的に体験することができた。命を救うことの大切さと方法を学ぶことができる価値ある経験となった。



2 成果と課題

各学年とも生活科や総合的な学習の時間を中心として、各教科での学びにつなげたり、広めたりしながら活動をすすめていった。その結果、人や地域とのつながりを深めることができ、直接に体験しながら学びを積み重ねることができた。また、他校との交流を通して、学びを広げることができた学年もあった。

今後の課題として、学校全体としての取り組みの共有化や人材の発掘、時数の確保などがある。今後もESD カレンダーの見直しを行いながら、他教科との関連をより一層深め、時間の有効的な活用ができるようにしていきたいと考えている。